

第3節 自動車交通量の増加

第1 自動車保有台数および交通量の推移

最近のわが国におけるモーターリゼーションの進行は著しく、全国の自動車登録台数はすでに1,800万台をこえている。

大阪府においても自動車台数の増加はめざましく、昭和45年12月末には、約133万台に達した（表一7）。これを昭和32年当時と比べると実に8倍という驚異的な伸びを示している。このような現象がもたらす当然の結果として、自動車交通量は大幅な増加をみせている（表一8）。

第2 交通渋滞発生回数の推移

自動車交通量の増加に伴い、交通渋滞発生回数も昭和39年から昭和44年までは大幅に増加していたが、昭和45年には交通渋滞が急激に減少した。

これは、万博関連道路の建設による交通容量の増大と市内4幹線道路の一方通行規制、地下鉄建設工事等大規模工事の完了によるものと考えられる。

昭和45年度中における交通渋滞は9,525回で、前年の16,602回に比し42%の減となっている（図一10、表一9）。

表一7 大阪府における年次別自動車登録台数

(昭和45年12月末現在)

年次	自動車台数（軽含む）	軽自動車台数
32年	165,841	75,874
33	189,762	86,928
34	235,071	110,732
35	309,763	155,011
36	381,603	182,831
37	446,580	208,940
38	523,856	231,742
39	611,093	250,964
40	683,307	265,411
41	770,852	282,558
42	876,330	299,577
43	1,013,171	340,923
44	1,175,308	385,252
45	1,336,539	432,312

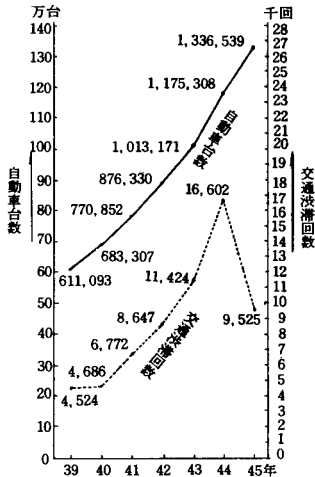
表一 8 自動車交通量の推移

種 別		年 度										
		昭 38	39	40	41	42	43	44	45			
交 通 量	自 動 車	大阪市内	台 数	2,242,531	2,356,623	2,348,468	2,406,938	2,436,553	2,446,158	2,472,360	2,477,910	
			調査箇所数	39	39	39	39	39	39	39	39	34
			1交差点平均 指 数	57,501	60,426	60,217	61,716	62,476	62,722	63,394	72,879	126
		大阪市域外	台 数	696,543	733,941	757,901	760,651	809,934	739,525	920,829	276,489	
			調査箇所数	27	27	27	27	27	20	21	7	
			1交差点平均 指 数	25,797	27,183	28,070	28,172	29,998	36,976	43,849	39,498	
	軽 車 輛 (大阪市内)	台 数	168,678	134,454	95,500	92,113	63,606	62,100	36,936	33,776		
		調査箇所数	39	39	39	39	39	39	39	34		
		1交差点平均 指 数	4,325	3,448	2,449	2,362	1,631	1,592	947	993		
		指 数	100	80	57	55	38	37	22	23		
		歩 行 者 (大阪市内)	人 数	728,027	716,196	722,698	624,995	551,300	478,720	486,044	370,582	
			調査箇所数	10	10	10	10	10	10	10	6	
1交差点平均 指 数	72,303		71,620	72,270	62,500	55,130	59,840	48,604	61,764			
自動車登録台数	台 数	784,912	878,046	960,859	1,050,095	1,162,157	1,298,998	1,369,920	1,526,430			
	指 数	100	112	122	134	148	165	175	194			

(注) ※原動機付自転車も含む。

図一 10 大阪府における自動車台数と交通

渋滞回数の推移



(注) 交通渋滞とは、車の列が500 m以上つづき、しかも30分以上継続している状態。

表一 9 大阪府下における交通渋滞発生状況

年 次	件 数	指 数
37年	2,760	100
38	3,426	124
39	4,524	164
40	4,686	170
41	6,772	245
42	8,647	313
43	11,424	410
44	16,602	601
45	9,525	345

第3 ガソリン消費量の推移

自動車台数の伸びは、昭和37年の44万台に対し、昭和45年には133万台と最近9年において約3倍の増加を示しているが、自動車燃料であるガソリンの消費量は約2倍で、それほど伸びていない(図-11)。その理由としては、道路整備がまだ自動車の増加においつけず、交通渋滞のため走行距離がのびないこと、また最近では、排気量の1,000cc~1,200ccクラスの自動車の生産が多く、2,000ccクラスのもの少なくなっている傾向にあることが考えられる。

図-11 大阪府における自動車保有台数とガソリン販売実績の推移

